

平成30年6月25日

平成30年度 第3回銚子市下水道事業運営協議会 概要

- 1 日 時 平成30年6月25日（月）午前10時00分～午後12時10分
- 2 場 所 市役所3階庁議室
- 3 出席者 委員 9名（宮崎会長、岡田委員、小倉委員、滑川委員、安西委員、  
石橋委員、徳元委員、和田委員、松尾委員）  
事務局 6名
- 4 概要 下記のとおり

記

銚子市の財政状況等について

- ・企画財政課長より銚子市の財政状況と総合戦略について説明

議題（1）下水道使用料の見直しについて

- ・料金改定の必要性について

【財政状況等について】

委員：市税の推移について、27年度が減少した理由と28年度が増加した理由は。

事務局：27年度が減少した原因は固定資産税。固定資産税は3年に1度評価替えをするが、地価が安くなっていることから固定資産の評価も下がり、減少している。30年度も評価替えを行うが、それにより固定資産税は減少する見込み。

28年度が増加した原因は農業所得の改善があったためと考えている。28年度は農家さんの所得が増えたため税収が増加した。しかし一次産業であるので、必ず毎年度増収が見込めるというわけではない。

委員：下水道区域外の方の都市計画税も下水道事業に充てられるとのことだが、区域外の方の一人あたりの都市計画税は具体的にいくらになるのか。

事務局：都市計画税は固定資産税の中に含まれているもので、単純に人口で割り返すことはできるが、区域内・区域外の検証は行っていない。どうやって検証するかも含め検討させていただきたい。

委員：生活保護費は増えているのか。またどれくらいかかっているか。

事務局：年間9億円以上で、毎年増えている。ただ全額ではなく、国・県・市で負担している。負担割合としては国が一番多く、市の負担は1/4。

高齢者の生活保護者が増えており、働くことのできない方が多くなっている。また生活保護一歩手前の方に対する就業支援や学習支援等もあり、扶助費が増加し

ている。

委員：人件費はもう少し削減できるような気がするが。

事務局：職員数を減らすには組織を再編する必要がある。たとえばごみ処理施設は広域化する予定だが、これにより市の職員ではなく広域の職員となるため、人件費が減る見込みである。

#### 【料金改定について】

委員：値上げは仕方ないが、いきなり月 500 円上がるのは厳しい。2 か月で 500 円ならやりくりできると思う。

委員：改定率は 11.28%、17.28%、22.39%と示されているが、具体的な単価だと割合が上がる。なぜか。

事務局：今回の料金改定では基本料金は上げず、従量料金のみを上げようとしている。全体でそのパーセント上げようとする、基本料金分が従量料金に反映され、割合が上がる。

委員：10%以上の値上げは非常に負担が大きい。

委員：基本料金は事業者も一般家庭も同じなのか。銚子市は他と比べると安い方か。

事務局：事業者も一般家庭も同じ月 500 円。市町村によっては別料金にしているところもある。

銚子市の基本料金は月 500 円と安く見えるが、本市の場合、従量料金が 0 m<sup>3</sup>から発生する。たとえば近隣の旭市の基本料金は 1,200 円だが、10 m<sup>3</sup>までは 1,200 円で、一概に銚子市が安いとは言えない。

委員：空き家からも料金を徴収できているのか。

事務局：水道を開栓していれば使用量 0 m<sup>3</sup>の空き家でも基本料金を徴収する。支払いが滞ると水道料金の支払も滞ることになるので停水となる。

委員：銚子市の水道料金は他市と比較し安い方か高い方か。

事務局：一般家庭はそれほど高くない。

大口は 1,000 m<sup>3</sup>以上の従量料金単価が 355 円とこちらもそれほど高くないが、水道の場合はここに口径別の基本料金が加算される。そこまで含めた金額での比較はこの場ですぐにはお答えできない。

委員：大口利用者にとって値上げの影響は本当に大きい。何か緩和措置を取ってもらいたい。

委員：汚泥の処分量と運搬・処分単価の推移はどうなっているか。

事務局：汚泥の処分量は増加傾向であるが、人口減少に伴い減少していくと思われる。運搬単価は毎年見積合わせを行っており、下がっている傾向にある。処分単価はここ10年前後変わらない。

以上